

## 細江カトリック教会だより 4月号

〒750-0016 下関市細江町1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura.ne.jp>

## 復活ということ



今年もまた、桜の季節が巡ってきました。教会の典礼は、例年より遅い4月21日に復活祭を迎えます。毎年、同じように四旬節の務めを果たし、聖週間の典礼を準備し、喜びの復活節を迎えることとなりますが、つい、わたしたちの信仰の根本である復活について、考えることを後回しにしていないでしょうか。

復活ということ、あの十字架で亡くなったイエスが復活されたという信仰は、わたしたちの生活、そして、人生にどのような意味をもっているのでしょうか。新約聖書、そして、使徒たちの宣教や使徒たちが残した手紙は、いずれも、イエスの復活を大前提に書かれています。忘れてならないことは、聖書に書かれていることは、復活という人間の理解の及ばない神秘そのものについて詮索するのではなく、むしろ、自分たちが経験したことを、人間が理解できる言葉で表そうとしていることです。福音書は、イエスの復活そのものについて記すのではなく、むしろ、理解できない神秘を前提に、明らかにされたことを記しています。例えば、イエスが葬られた墓にイエスの遺体がないこと、そのことの説明として、天使（あるいは若者）が伝えたメッセージを記します。それは、あの十字架に付けられて亡くなったイエスが生きておられるということ、そして、自分た

ちをその証人として世界に遣わされること、復活したイエスが、彼らと共におられるということです。これは、四つの福音書、そして、後に使徒団に加えられたパウロの手紙に共通してみられることです。

このことは、イエスの復活から2000年以上もたった時代に生きるわたしたちにとって、どのような意味をもつのでしょうか。ひと言で言うならば、あの復活された方は、わたしたちの人生の中で、繰り返し、復活の神秘を体験させ、使徒たちが経験したと同じ確信を持たせてくださるということです。復活の主は今も生きておられます。弱いわたしたちを、真の命を模索しているこの世界に遣わしてください。そして、いつもわたしたちと共にいてくださるのです。この世の限りある人生を生きるかぎり、必ずや、自分の理解の及ばない出来事や事の顛末を体験するでしょう。しかし、恐れることはないのです。復活の主は、そこから立ち上がらせ、生きる希望を与え続けてくださるのです。人生の中で経験する様々な負の体験が、復活のいのちに導くものであることを、あらためて悟らせていただきましょう。

作道 宗三 神父



\*作道神父さま、退院おめでとうございます！ でも、まだまだリハビリが大事です。

## 地区だより I

人生は予期せぬ出来事の連続。  
私は高校3年の冬、受験勉強の真最中に湿性肋膜炎で40日入院。回復後、再度挑戦しようとして翌月試験という日に、今度は母が結核に倒れ大学生活は夢に終わってしまいました。でも笑っても歌ってもいけないという入院生活の中でたくさんの本と出会い、今の自分の原点になっている気がします。

もう一つの大きな予期せぬ出来事は古希でカトリックの洗礼を受けたこと。60年振りにこの細江教会の門を叩く気になったのは一体なんだったのだろう・・・今振り返ってみても本当に不思議で、何かに背中を押されたと思えない気がしています。

コヘレトの「何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある」という言葉の通り、神さまのはからいの中に生かされていることを実感します。キリスト者として神さまの望まれる生き方ができているのか甚だ疑問です。でも、迷いながらもイエスさまの教えを道しるべとして一日一日を大切に生きていきたいと思っています。

細江地区 上田 洋子



## 世界平和祈禱集会 3/1 (金)

今年の世界祈禱日の集いは、日本キリスト兄弟団山の田福音協会で行われました。

今年のテーマはスロベニアでした。白く美しい御堂ホールに入ると東京の大使館からお借りしたというスロベニア国旗とたっぷりといけられた祝宴花、深紅のカーネーションが迎えてくれました。また大使館からのレシピで焼いたパン（ベロクラニスカ・ポガチャ）も置かれていました。ヨーロッパで最も小さく若い国、スロベニア（1991年6月、独立宣言）。歴史に翻弄された国。スロベニアの女性たちが準備した式文により参加者全員（110名）で朗読と讃美歌の時間を持ちました。

祈りのあとは下関市内18の参加教会の自己紹介となりました。「無牧」という言葉で語られる司牧者不在の教会や信徒がひとりに近い教会もあり、きょうの分かち合いに力づけられたとの発言が多くありました。

細江教会からは8名の参加。小さな紙をお渡しし「ミニ感想」をお願いいたしました。

\*スロベニアの方の自由と正義と平和のために各教会から数名の参加ですが、本当に共に祈りを捧げることで一致を強く感じました。神に感謝。

\*皆で一生懸命祈る姿にとっても感動と感謝の思いでいっぱいです。この場にいられたことに感謝。

\*とても良い分かち合いでした。毎年参加すると顔なじみの方でもできることでしょう。心地よい準備ありがとうございました。

\*教派を超えて祈る喜びが信仰を受け継ぐ力強い証しに触れました。表現は違っても、同じイエスにつながる一致は大きな喜び。

\*プロテスタント教会の方と親しくさ

せていただける大変良い機会です。  
この祈りの集いを心を込めて準備された山の田福音教会の皆さまに感謝申し上げます。次回は丸山教会で開催です。  
白濱 敏子



### 東日本大震災祈りの集い 3/11

東日本大震災から8年の月日が流れました。被災地はどうなっているのでしょうか。被災者の方々は生活を取り戻しているのでしょうか。まだまだ困難な状況の中を、どのようにどんな思いで過ごしているのでしょうか。

被災地や被災者の情報が少なくなりつつある中でも、私たちは自分のこととして考え、できることをさせていただきたいと新たに思います。

この日14時30分から三教会35名程の人々が集まり、聖堂の静寂な中を祈りを捧げました。

一人ひとりの祈りも良いことですが、一緒に祈ること・・・それが大切なことだと感じる日でした。



お祈りの最後にハプニング！が・・・  
14時46分、震災の時刻に合わせて鎮魂の鐘が鳴るはずでしたが・・・突然故障し残念。  
でも心の奥には・・・「忘れないで～」と、鐘が鳴っているかのよう。

近藤 かつみ

### 四旬節黙想会 3/24 (日)

四旬節黙想会が金ミカエル神父様のご指導で3月24日9時から「使徒パウロの回心と私たちの四旬節」として開かれました。

終始、にこやかに嬉しそうに、立ったまま、どの場所からでも見えるように配慮して話して下さいました。

メモと配付された資料をパソコンに入力し、原稿の準備を始めましたが、作業は進みません。次に、2019年四旬節教皇メッセージ、カトリック祈禱書祈りの友の四旬節の祈り、を入力して、自分の四旬節に対する真剣ではない姿勢に気づかされました。

そこに至って、神父様の「罪悪感は何もしてくれない、回心の原動力は、神のあわれみ、イエス・キリストのみこころ、愛」という言葉によって、回心し、私の心には静かな喜びが今あります。かつて恩師から、心に喜びがあるのは、主イエスに確かに出会ったのだ、と教えて頂きました。「私たちの人生にもダマスコの出来事のようなことがある」と神父様もお話しておられました。

神父様が話された言葉通りではありませんが、使徒パウロに起こった、裁かれなければならないことをしたにもかかわらず、裁かれずに、使命を与えられ、未来に向かって希望を持って生きることへと召し出されていく、という神父様のお話の「美しい矛盾」は私たちにも起こると私は学びました。

四旬節をどのように過ごすか知った今、どれだけ回心しなければならないだろうと思いますが、神父様は、「私たちはいつ回心したのか」という問いに対して「毎回、毎瞬間」。私たちは「毎回、毎瞬間」愛されているから、と。「神様の愛を思い起こさなければならない」

とも仰って勇気づけて下さっています。神父様は、私たちの四旬節に、使徒パウロにならって、配慮をもって、愛のお返し、声であったり、手の動きであったり、やさしいお返しをして過ごすように指導して下さいました。私は受け取っています。

三村 隆治



\*柔らかな声、熱のこもった話で、私たちに回心に導く。

## 会計担当から学んだことは・・・

平成29年から30年度の2年間、信徒会の会計に携わりましたが、皆様には種々様々な形で支えられ助けられながら、今日まで無事に勤めを終えることが出来ました。ご協力下さいまして誠に有難うございました。

会計を承ると必然的に常任委員・財務委員の一員となり、初年度は会議に出席するも何もわからぬままに時が過ぎました。近藤さんや三井さんには、あれこれと同じことを何度も聞いてはご迷惑のかけっぱなし・・・己の無知さ加減に自分でも呆れるばかりでした。名ばかりの信者とは私のことでしょうか。神様の御旨に添えなくてゴメンナサイ！！

そのような私も行事を通して、教会の問題点が少し見え始めました。高齢化や少子化、人との交わりに対する希薄化が当教会にも見られるのではないのでしょうか。現に教会行事への参加者が減少しております。準備や片付ける

人々の気持ちを考えても、クリスマスや復活祭、敬老の祝賀会には、皆さんと共に喜びを分かち合い、大掃除などの力仕事は人手があれば一人分の範囲や時間も少なくなります。物事を加減乗除の捉え方をしてみてもいいでしょう、互いに補い合い・喜びを増やし・苦しみ悲しみは寄り添い分け合って軽くし、兄弟姉妹として信仰の種を蒔きましょう。知らなかった、聞いてないわと言わずに教会の状況を自分の目で見、分らないことがあれば聞いて少しでも関心を持ち理解しようとすれば、決して無関心ではられない。教会建設も先のことではなく、身近な問題として捉えなければ、やがて子供たちに大きな負の財産を与えてしまいます。

無理をせず自分の出来る範囲で協力を厭わないようにと、自らを顧みながら学ぶことが出来ました。

吉山さんにバトンを託して

山本 美穂子



\*教会のセンターの南のフェンスに、もっこうバラも咲き始めました。春ですね～。公園の桜も風に揺らいで“ほわあ～”と咲いています。皆さま、ゆっくり教会周りを見て下さいね。

そしてセンターで  
お茶でもどうぞ。  
(こ)



## 募集します！

- \*「あなたにとって平成とは？どんな時代でしたか？」のメッセージを。(聖堂の箱へ)
  - \*あれこれ、いろいろ、言いたい知りたい事、記事にしたいことあれば投稿してください。
- 広報委員会より

